

平成28年度 第1回堺市堺区区民評議会 主な意見

1 町家の保全・活用のあり方

- ・ 町家を持っている人が自分で何かをすることは少ないので、民間と行政が組んで、見つけ出して、活用できる人に紹介するような仕組みづくりが必要。
- ・ 仕組みとして、町家に係るセンターみたいなものをつくるのか、紹介する冊子をつくるのか、部署をつくるのか、どのようにすればよいかを考えていけばどうか。
- ・ 町家の活用ということでは、古い町家を改装して宿泊所にする取組も進めている。これはタイミングがよかったからでただけで、このようなマッチングを組織的にやっていけば、どんどんできるのではないか。このような動きが見えてくれば、使ってほしい人や使いたい人も現れてくるのではないか。
- ・ すでに町家を利用したカフェや家具屋などができていて、吸引力もある。それをエリアとして広めていくことで、魅力的な資源となる。
- ・ 点在しているところを取り組んでも、思ったほどの効果が望めないこともあるのではないか。ある程度固めないと魅力につながらない。
- ・ 狭い範囲でもいいので、町家が並んでいるところが必要。そうすることで、人が集まってきて、だんだん広がっていく。
- ・ 例えば、町家相談所みたいな形で、町家の情報を集約し、提供していくような施設が必要ではないか。
- ・ 町家などの所有者に対しての意識調査的なものをしていけばどうか。大学等と連携してやっていけばどうか。調査にしても、大学との連携で進めてはどうか。そういうことを通して、まちに愛着をもってもらってはどうか。
- ・ イオンができたことによる集客を近くの町家の多い地域にいかに集客するのかという視点で考えていけばどうか。
- ・ 古い建物を処分したり、貸したりするときは、区に届けるなどのしくみをつくれば、一定おさえられるのではないか。
- ・ 今からつくるものに基準を定め、その基準でつくっていったら100年経ったらすごく良い町になる。長いスパンで考えてはどうか。

2 その他

- ・ 魅力的なものをどのようにすればよいかを評議会で詰めていけばよいのではないか。
- ・ 町家以上に、寺も多い。その活用も考えていけばどうか。
- ・ 商店街に魅力的に店舗を誘致するために、自分の会社でテナントを借上げ、必要なテナントを呼ぶ取組を行っている。このようなマッチングを行っていくことが必要。